

12 (平成30年度現地圃場試験) 冬季野菜現地試験

試験の目的

当センターが過年度に作成した『旭川市内におけるビニールハウス内の冬期野菜栽培マニュアル(暫定版)』に基づき、市内2か所のほ場における実証試験を行い、同マニュアルの内容の検証、本市における冬期野菜栽培技術普及にあたっての課題の整理、並びに冬期野菜栽培の普及施策に必要な基礎資料を得ることを目的としました。

なお、本試験は、市農業振興課の冬期野菜栽培実証事業の一環として実施したものです。

関係先

市内生産者・市内直売所

現地試験の概要

	場所	栽培品目	作期	共通
現地圃1	東旭川町日ノ出	リーフレタス	①9/10 播種, 9/25 定植 ②9/15 播種, 9/30 定植	二重ハウスでの無加温栽培, トンネル使用
現地圃2	東旭川町上兵村	コマツナ	①9/28 播種 ②10/7 播種	
		小カブ	①9/12 播種, 9/28 定植 ②9/20 播種, 10/7 定植	

試験結果(概要)

平成30年度は平均気温はおおよそ平年並みでしたが、9月上旬から12月上旬までの最高気温は平年よりも高くなりました。特に、9月中旬は平年より多照となり、作物の初期生育が良好でした。一方で、最低気温は栽培期間を通して平年より低く推移しましたが、 -20°C 以下の低温は1月中旬までなく、作物が厳しい寒さに晒されることはあまりありませんでした。

リーフレタス圃場ではトンネル内の最低気温が -8.0°C 、コマツナ・小カブ圃場ではトンネル内の最低気温が -12.0°C でしたが、凍結により作物が枯死することはありませんでした。

また、平成30年度は全国的に暖冬で本市での冬期野菜を出荷する時期と本州産野菜の流通時期が前倒しになったために重なり、野菜の価格が平年より低迷しました。



リーフレタス圃場



小カブ・コマツナ圃場

リーフレタス

品質保持できた収穫期間

11月下旬から12月下旬まで（株腐れ症状多発まで）

収益試算

一株あたり120円～150円で販売，定植数に対する出荷率7割，販売手数料21.5%，10aあたり株数11,111株とした販売額は，約85万円でした。

生産者の感想

メリット：市内で栽培が増えている寒締めホウレンソウとの競合を避けるための品目として栽培し，冬期の直売所の品数が増えること

デメリット：トンネル被覆の手間，寒締めホウレンソウに比べ寒さで傷みやすい，株腐れ症状の発生，大きな株の袋詰め作業が困難

課題：省力なトンネル管理及び過湿対策，売れ行きが良かった小株サイズに育てる方法



コマツナ

品質保持できた収穫期間

11月下旬から1月下旬まで（調査終了まで）

収益試算

一袋5株前後で80円で販売，定植数に対する出荷率5割，10aあたり株数138,888株とした販売額は，約111万円でした。

生産者の感想

メリット：安定した売れ行き，収穫作業性の良さ

デメリット：トンネル被覆の手間

課題：省力なトンネル管理，出荷率の向上（10月以降の播種を避ける，保温を強化する等）



小カブ

品質保持できた収穫期間

11月下旬から1月下旬まで（調査終了まで）

収益試算

一玉平均40円で，定植数に対する出荷率5割，10aあたり株数44,444株とした販売額は，約89万円でした。

生産者の感想

メリット：他産地に比べ優れる葉の外観，漬物需要，良食味

デメリット：洗浄の手間，出荷後の葉の萎れ

課題：省力なトンネル管理，出荷率の向上（10月以降の定植を避ける，保温を強化する等）

